

ヨハネ福音書 21章「この人はどうですか？」 - 2024.02.01

「それがあなたに何の関係がありますか」という答え

ヨハネの福音書21章21節、ペテロがヨハネのことについて「主よ、この人はどうですか」と聞くと、イエスは「それがあなたに何の関係がありますか」という、冷たく感じられる言い方で答える。「私が来るまで彼が生き永らえるのを私が望むとしても、それがあなたに何の関わりがありますか。あなたは私に従いなさい」と言うのである。

そこで「死なない」という話が広まった。ペテロは死ぬ、殉教して栄光を現すと明確に語られたが、この人(ヨハネ)については、殉教しそうだともそうでないとも何も言っていない。

カナの婚宴での言葉との共通性

この不思議な「何の関わりがありますか」という答えは、ヨハネの福音書の最初のカナの婚宴のところでも似た表現が使われている。「ぶどう酒がなくなりました」と母マリアが言った時、イエスは「の方、あなたは私と何の関係がありますか。私の時はまだ来ていません」という、疑問符がついてしまうような答えをしている。

マリアはそのことを心に留めていたと思われるが、意味の分からぬ回答をする時、それは相手が理解したり関心を持ったりしていることを超えた、大きな計画や時の流れがあるという視点が示されているのである。

したがって「何の関わりがありますか」と言っているのは、「今は説明できるようなものじゃないよ」という意味も含めていると考えられる。その後、イエスはそれ以上説明しない。最後にわざわざヨハネが「死なないかのような言い方」、「私が来るまで生き永らえる」とは何を言っているんだろうという疑問を記しているが、その時には何を言っているか多分分からなかっただろう。まだ栄光を受ける前だったから、分からなかったのである。

その後で振り返って思い返したという箇所はヨハネの福音書に何箇もある。その「愛された弟子」—なぜそう呼ぶのかはよく分からないが—その証言は真実である

ということを、福音書は語っている。

ペテロの死とヨハネの証言——二つの大祭司の働き

その弟子は何をしたのか。ペテロは十字架の死の栄光を表す、その死のようなものを経験するということだった。

一方で、ヨハネの福音書自体の全体は何のテーマなのかと言うと、「大祭司であるキリスト」を表しているということである。聖所にある二つの宝、燭台(光)とパン、言葉と命。これがヨハネの福音書でずっと流れているテーマである。光とパン、裁きと命、言葉と命。こういうものがずっと流れている。

この大祭司は何をする人なのかというと、「身代わりの死」である。この大祭司の死によって勝利が表されたということが、このペテロの死で表されているのである。

ヨハネの黙示録への連続性

もう一つ、ヨハネは証しをしたと言っているが、ヨハネの福音書には続きがある。ペテロの話は「ペテロの手紙」に続いているが、ヨハネには「ヨハネの黙示録」が続きとしてある。ヨハネが神の言葉とイエス・キリストの証し、彼の見たすべてのことを証ししたと言って、黙示録を書き残し、その預言をした。

ヨハネは聖所に入ってその幻を見て、神の言葉を受けているということである。それは大祭司の働きであると言える。大祭司は死を経て、至聖所の宥めの蓋、ケルビムの翼の間から語る神の言葉を聞く。これが大祭司の働きなので、もう一つの大祭司の働きをヨハネが受けているのである。終わりの日の預言の言葉を受けているという意味で、ヨハネの続きはヨハネの黙示録となる。

「私が来るまで」の意味

「私が来るまで生き永らえるとしても」と言っているが、主が来られる日の預言こそが黙示録である。その最後は「然り、私はすぐに来る。アーメン。主イエスよ、来てください」という言葉で終わっている。したがって、その特別な証しをする責任がヨハネには与えられていたのである。

「何の関わりがありますか」と言っているが、もしその時「この人はAD70年のエルサレムの裁きの時の預言をするんです」と答えられても、なんだかさっぱり分からなかつたはずである。だから、そのことは言っていない。

ヨハネは多分、黙示録を書いた後にヨハネの福音書を書いたのか、あるいはまとめたのか、それは分からぬ。預言を与えられた後で21章を追加したのかもしれないが、その辺は分からぬ。しかし、ヨハネは福音書の続きとして、黙示録の働きを与えていたということである。

結論——大祭司の二つの働きを表すエピローグ

その二つ、ペテロの死とヨハネの預言をセットにして大祭司の働きを表す、それがヨハネの福音書のテーマだということである。

21章のエピローグは、単なる補足や後書きではなく、福音書全体のテーマである「大祭司であるキリスト」の働きを、二人の弟子を通して示している。ペテロは身代わりの死という大祭司の一つの働きを、ヨハネは神の言葉を受けて証しするという大祭司のもう一つの働きを、それぞれ担うこととなった。

この二つの使命の違いを、復活のイエスは「それがあなたに何の関係がありますか」という言葉で示し、それぞれに固有の召命を与えたのである。